

テーマ：

神の法

ザコン ポーゾイ
Закон Божий

《 神 について 》

正教会は、「人間の本分とは、神を認識し、神に倣い、神の如く成ることである」と教えていますが、私たちがこの本分を全うするためには、まず「神」について正しい理解を持っていなければなりません。

神とはどのような存在で、私たち人間は神とどのような関係にあり、神は私たちに何を求めているのか、ということについて、人間は自分の力で考え、理解することはできません。今日私たちが、神について知っていること——それは、神が私たちに「啓示」してくれたことに拠るのです。神がご自分のこと、また人類に対する慮りのことを、人間に教えてくれなければ、人間の限られた智恵でそれを知ることは無かったのです。神を直接知っていった唯一の人間、それは、アダムとエワです。その後、楽園を追放された後の時代の人間は、元祖アダムとエワから伝え聞いた話、またその子孫から伝え聞いた話によって神を知るようになりました。しかし、時代が経つにつれて、人間の罪深さゆえに、神と人間との間のチャンネルは、次第に弱く、微かなものとなっていきました。人間は神のことを忘れ、偶像崇拜に走るようにさえなりました。

そこでモイセイはじめ、諸預言者たちは、神についての正しい教えを、神に導かれながら文字に表わしました。これが旧約聖書です。まわりが退廃していく世の中であって、預言者たちとは、「神の啓示を正しく受けとめることのできる聖神^o性のチャンネルを護り持っていた人たち」ということができます。

救主イイス・ハリストスが、この世に現れたとき、主ハリストスは、神についての知識を旧約の時代よりもはっきりと、完全な形で人間の前に教え示しました。それは旧約の教えの上に立脚する神についての完全な理解でした。その一つは、神が「聖三者」であるということ。そしてもう一つは、神へ奉事すべき(仕える)ことや律法の上に、「神を愛する」ことがあると教えられたのです。この教えを文字にしたものが新約聖書です。

旧約聖書と新約聖書、この二つを併せて、私たちは自分の霊の救いのための正しい道標を得ることができます。これを「バイブル(Библия) = 聖なる書物」と言います。

(正教会の信者にとって聖書全体の中でも特に一番大切な部分は「福音書(Евангелие)」です。正教会の聖堂の至聖所の宝座の上に置かれているのは、聖書全体ではなく「福音書」が置かれていることから、「福音書」の重要性がわかります)。